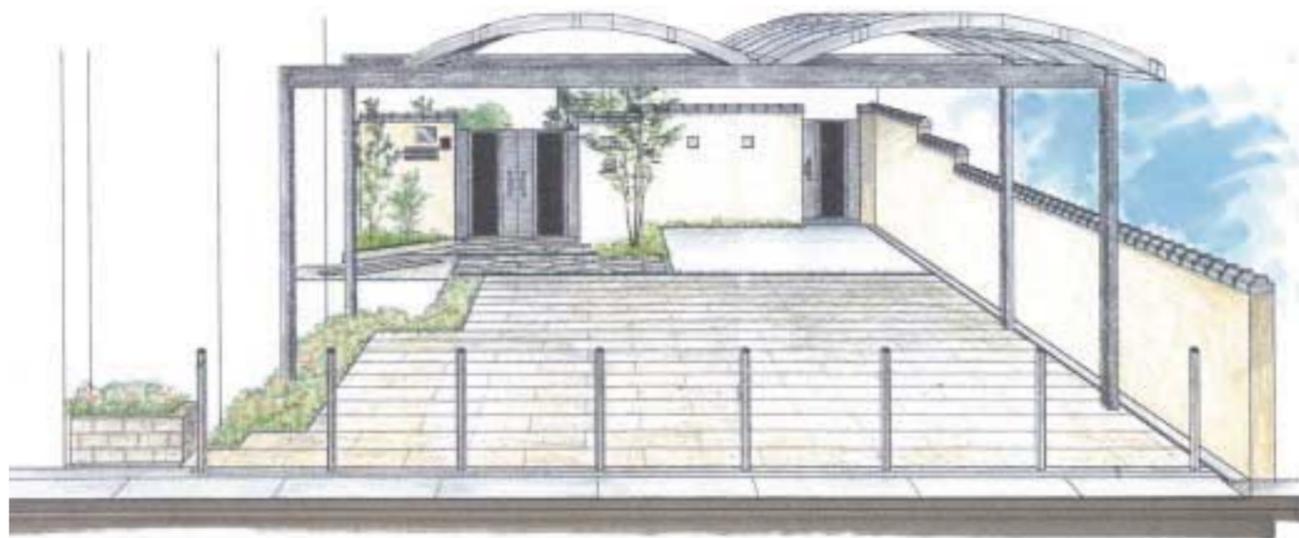


金賞

リフォーム部門 トーナン建設工業株式会社



敷地が旗竿型のため、リフォーム前の状況では、道路側は車庫と塀のみが存在する味気ないエクステリアファサードとなっていました。リフォームプランでは、既存の塀と屋根付車庫を取り払い開放的なアプローチ空間にする事でドラスティックに変化させています。和風の外構デザインとUスタイルの梁置タイプにより、開放的で明るい路地空間として、見事なリフォーム例となっています。

リフォーム前



リュック流ガーデン講座一三 プラスアルファの演出 「マテリアル」と「遊び心」

日本ガーデン会草分けの пейзаジスト(景观設計家)グロッセ・リュックさんの好評講座...最終話は「 ガーデンを演出するプラスアルファ」として、「マテリアル」と「遊び心」がテーマです。いろいろな素材の質感を生かす方法、見る人の想像力をかきたてるストーリーのある庭づくりなど、リュックさんならではのポリシーとテクニックを伝授します。

ベルギー大使館の中庭。庭伝いに行き来できるように、飛び石がわりに木製の五角形のデッキを設置。高さや大きさをえることで、狭い中庭に軽快なリズムが生まれ、楽しい空間に。



木、石、金属、合成樹脂 それぞれの風合いと特徴を生かして アクセントに

ガーデンをより楽しく演出するには、マテリアル(素材)の上手な使い分けが大切です。それぞれの素材の質感がガーデンのイメージを左右するからです。

マテリアルは大きく分けて木、石、金属、合成樹脂などがあります。木はナチュラルで軽く加工がしやすく、しかも価格も安いので非常に好きな素材です。もともと植物なので、どんな庭にも自然にフィットしてくれます。また、たとえばベンチやデッキをつくる場合、石や金属だと夏は熱く冬は冷たいのですが、木は温度差を和らげ、人にやさしい使い心地です。

金属、特に鉄も面白い素材です。どちらかというところヨーロッパのお城などクラシックなイメージが似合い、パーゴラやフェンスに使うと非常にリッチな庭が演出できます。ただ価格が高いため、一般にはもっとシンプルに、トレリス、マーカ、花台などのワンポイントに使う方法もあります。いずれにしても戸外では錆び防止の定期的な塗装など、アフターケアが必要です。



金物のショップで、アイアンを使用した看板。雲の上にハシゴをかけ、そこを上って水やりをしているファンタスティックな世界。金属の質感を使い分けてメルヘンの世界を創り出している。



横浜プリンスホテルの温室の一角。石を使うことで、重厚でスケールの大きな大自然を演出できる。滝をイメージした階段に、大小さまざまな形の石が置かれ、空間に変化をつけている。オットセイはブロンズ製でイギリスから輸入したもの。

DIYショップで販売されている塩ビの管を使った手作りのベランダ。管をタテと横に使い、ところどころ穴を開けてプランター代わりに利用した。チープな素材だが、軽くて丈夫なので、マンションのベランダには最適。軽快な白色なので、狭い空間に圧迫感を与えない。



グロッセ・リュック氏



1951年ベルギー、ブリュッセル生まれ。ペイザジスト(景观設計家)。ベルギーのマリモン・エコール・シュペリウール造園学科卒業。フランスとベルギーにて造園設計・施工・監理業務から大使館の庭師を経て1987年来日。現在、(有)みどりのゆび取締役設計部長。岩手県と埼玉県を拠点にリュック流ガーデンのデザイン・施工・オブジェデザインの分野で活躍中。著書「ガーデンデザイン」(コスモヒルズ刊)